科目名：地域課題実践プロジェクト
受講者数：9名
期間：R7年10月～R8年2月
概要：南阿蘇地域における「多文化共生の遅れ」「通過型観光（観光客の偏り）」「少子高齢化」といった地域課題に対して、学生独自の視点から解決策を模索し、学生主体でイベントを実施。
▼教材















科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

2. 実施スケジュール

プロジェクトは2025年10月下旬から2026年1月にかけて、企画立案からイベント実行、振り返りまでの一連のプロセスを実践。

時期	フェーズ	主な実施内容
2025年10月	イントロダクション	地域課題の洗い出し、「International Breakfast Project」のテーマ設定と役割分担の検討
11月	企画・段取り	4P（WHO/WHAT/WHY/HOW）フレームワークを用いた企画の精査、予算管理、提供メニューの決定
12月	準備・集客	ターゲット（17名）に向けた告知戦略（チラシ作成、SNS発信、フォーム作成）、コンテンツ準備（クイズ・プレゼン資料作成）
2026年1月	イベント本番	International Breakfast Project 実施 （8:30受付 / 9:00食事・プレゼン / 10:30交流クイズ / 12:30終了）
1月21日	振り返り	振り返りワークショップの実施（自己採点、成果と反省、チームワークの評価、次へのアクション設定）

科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

3. プロジェクトの成果と学生の振り返り（良かった点・課題点）
イベント終了後の振り返りワークショップから、当日のリアルな手応えと、学生たちの具体的な成長・反省点は以下の通り。

【良かった点・成功要因】
①食を通じた異文化交流と「非日常」の提供
・リランカカレーやミャンマーのデザート・お茶など、日本人参加者にとって普段味わうことのない新鮮なメニューを提供できた。参加者がデザートをシェアして楽しむなど、食をきっかけに海外への興味を持ってもらうことに成功した。
・お客様と学生が各国の料理や文化について深く語り合い、質問に答える時間が十分に持てたことで、目的であった「自然に交流できる場」を実現できた。

②臨機応変な現場対応とチームワーク
・本番では、準備がうまくいかなかった部分もありましたが、全体の動きを見て時間を調整し、時間通りにイベントを終える「巻き返しの力」を発揮した。
・調理場の人手が足りない時に別のメンバーがサポートに入るなど、多国籍なメンバーが役割分担を超えて自発的に助け合う、素晴らしいチームワークが築けた。

科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

【課題点・次へのステップ】

①「伝える力」と事前準備の不足

・当日、緊張から参加者へ積極的に声をかけられなかったり、提供したデザートなどの説明が不足してしまったりしたことが、多くの学生の反省点として挙がった。「事前に話す内容を整理し、自信を持って伝える」ことが次への明確な課題となった。

・プレゼン資料を作成する際も、時間がない中で情報の正確性をもっと精査すべきだったという声があった。

②ターゲットに合わせたローカライズとメニュー調整

・「スリランカカレーの辛さをもう少し日本人向けに優しくすればよかった」「デザートのココナッツミルクが日本人の口に合うか配慮が必要だった」「コーヒーはもう少し苦味のあるものを用意すればよかった」など、ターゲットの味覚に合わせた細やかな調整（ローカライズ）の重要性に気づくことができた。

・予定していたデザートの材料（チョコレート）が手配できないなどの準備不足もあり、事前の確実な段取りが求められる。

③交流コンテンツの拡充

・クイズ大会は笑顔が見られ好評でしたが、「もっと問題数を増やせばさらに良かった」という意見があり、参加者をさらに楽しませるためのコンテンツの深掘りが今後の検討事項となった。

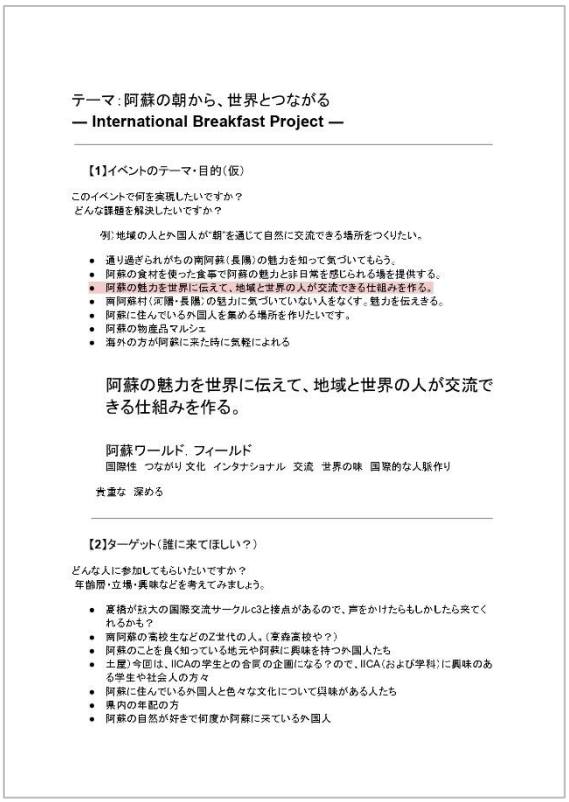
4. 総括

「阿蘇の朝から、世界とつながる」というコンセプトのもと実施された本プロジェクトは、学生たちに大きな達成感と実践的な課題の両方をもたらした。学生たちの自己評価は、厳しく反省点を振り返る者から、無事にやり遂げたことに自信を持つ者まで様々でしたが、共通していたのは「お客様の笑顔を引き出せた喜び」と「チームで助け合えた実感」である。

言語や文化の壁、そして「イベント運営」という実務的な壁を乗り越え、参加者に価値を提供できたこの経験は、単なる授業の枠を超え、今後の社会人基礎力（コミュニケーション能力、柔軟な対応力、課題発見・解決力）の確かな土台となった。

科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―
教材資料



テーマ：阿蘇の朝から、世界とつながる
― International Breakfast Project ―

【1】イベントのテーマ・目的（仮）

このイベントで何を実現したいですか？
どんな課題を解決したいですか？

例）地域の人と外国人が"朝"を通じて自然に交流できる場所をつくりたい。

- 通り過ぎられがちの南阿蘇（長陽）の魅力を知って気づいてもらう。
- 阿蘇の食材を使った食事で阿蘇の魅力と非日常を感じられる場を提供する。
- 阿蘇の魅力を世界に伝えて、地域と世界の人が交流できる仕組みを作る。
- 南阿蘇村（河陽・長陽）の魅力に気づいていない人をなくす。魅力を伝えきる。
- 阿蘇に住んでいる外国人を集める場所を作りたいです。
- 阿蘇の物産品マルシェ
- 海外の方が阿蘇に来た時に気軽にふれる

阿蘇の魅力を世界に伝えて、地域と世界の人が交流できる仕組みを作る。

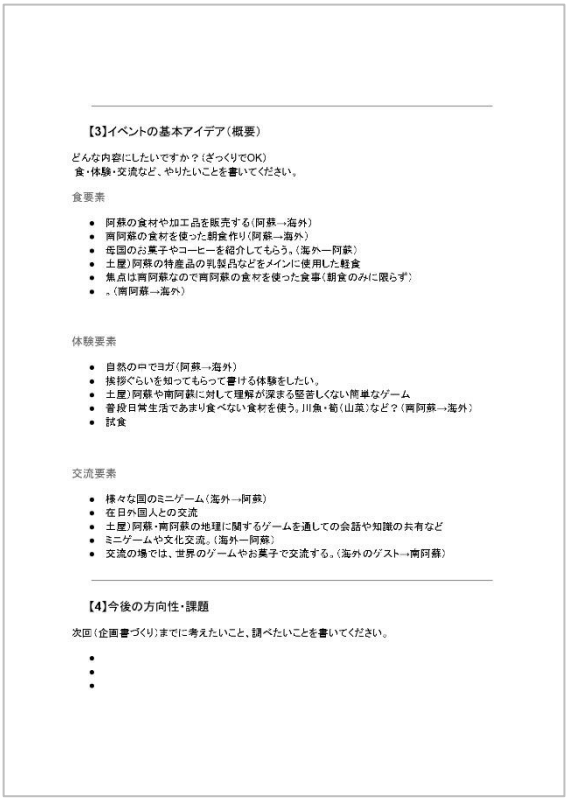
阿蘇ワールド、フィールド
国際性　つながり 文化　インタナショナル　交流　世界の味　国際的な人脈作り

貴重な　深める

【2】ターゲット（誰に来てほしい？）

どんな人に参加してもらいたいですか？
年齢層・立場・興味などを考えてみましょう。

- 夏休が巨大の国際交流サークルc3と接点があるので、声をかけたらもしかしたら来てくれるかも？
- 南阿蘇の高校生などのZ世代の人。（高森高校や？）
- 阿蘇のことを良く知っている地元や阿蘇に興味を持つ外国人たち
- 土屋）今回は、IICAの学生との合同の企画になる？ので、IICA（および学科）に興味のある学生や社会人の方々
- 阿蘇に住んでいる外国人と色々な文化について興味がある人たち
- 県内の年配の方
- 阿蘇の自然が好きで何度か阿蘇に来ている外国人



【3】イベントの基本アイデア（概要）

どんな内容にしたいですか？（ざっくりでOK）
食・体験・交流など、やりたいことを書いてください。

食要素

- 阿蘇の食材や加工品を販売する（阿蘇→海外）
- 南阿蘇の食材を使った朝食作り（阿蘇→海外）
- 各国のお菓子やコーヒーを紹介してもらう。（海外→阿蘇）
- 土屋）阿蘇の特産品の乳製品などをメインに使用した軽食
- 焦点は南阿蘇なので南阿蘇の食材を使った食事（朝食のみに限らず）
- 。（南阿蘇→海外）

体験要素

- 自然の中でヨガ（阿蘇→海外）
- 挨拶ぐらいを知ってもらって書ける体験をしたい。
- 土屋）阿蘇や南阿蘇に対して理解が深まる堅苦しくない簡単なゲーム
- 普段日常生活であまり食べない食材を使う。川魚・筍（山菜）など？（南阿蘇→海外）
- 試食

交流要素

- 様々な国のミニゲーム（海外→阿蘇）
- 在日外国人との交流
- 土屋）阿蘇・南阿蘇の地理に関するゲームを通しての会話や知識の共有など
- ミニゲームや文化交流。（海外→阿蘇）
- 交流の場では、世界のゲームやお菓子で交流する。（海外のゲスト→南阿蘇）

【4】今後の方向性・課題

次回（企画書づくり）までに考えたいこと、調べたいことを書いてください。

-
-
-



地域課題実践PJⅡ　イベント企画書

テーマ：阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

【1】イベント名（案）

（日本語・英語どちらも用意してもよいも。）
例：ASO Morning Table ～食でつながるローカルとグローバル～

世界の味を囲んで深める、貴重な文化交流

【2】開催目的

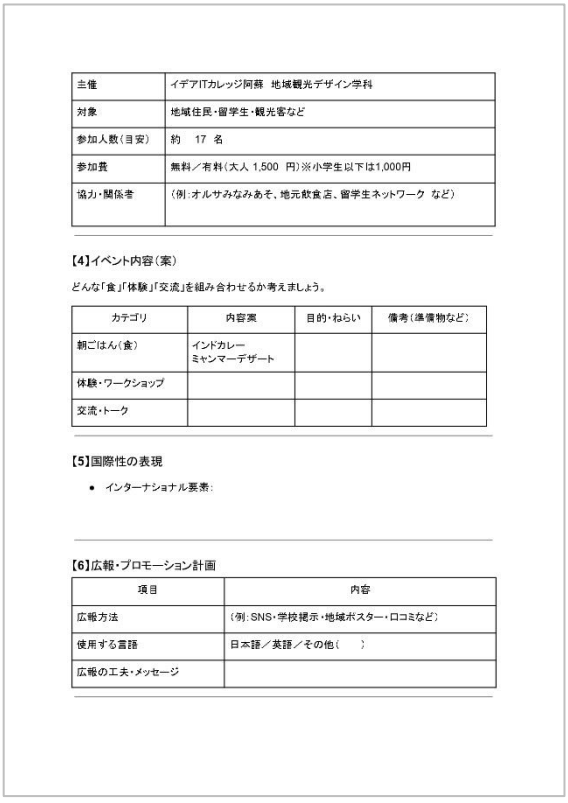
このイベントをなぜ行うのか？
地域課題や社会的意義、参加者に与えたい価値などを整理しましょう。

例）地域の人と外国人が"朝"を通じて自然に交流できる場をつくり、阿蘇の食文化と暮らしを世界に発信する。

地域の人と外国人が"朝"を通じて、世界の食文化と暮らしをシェアしながら阿蘇で自然に交流できる場をつくる。

【3】開催概要

項目	内容
開催日	2026年1月17日（土）
時間帯	午前（例：10:00～12:00中締め　最終13時まで）
会場	オルサみなみあそ（予定）



主催	イデアITカレッジ阿蘇　地域観光デザイン学科
対象	地域住民・留学生・観光客など
参加人数（目安）	約　17　名
参加費	無料／有料（大人 1,500　円）※小学生以下は1,000円
協力・関係者	（例：オルサみなみあそ、地元飲食店、留学生ネットワーク　など）

【4】イベント内容（案）

どんな「食」「体験」「交流」を組み合わせるか考えましょう。

カテゴリ	内容案	目的・ねらい	備考（準備物など）
朝ごはん（食）	インドカレー ミャンマーデザート		
体験・ワークショップ			
交流・トーク			

【5】国際性の表現

- インターナショナル要素：

【6】広報・プロモーション計画

項目	内容
広報方法	（例：SNS・学校掲示・地域ポスター・口コミなど）
使用する言語	日本語／英語／その他（　　）
広報の工夫・メッセージ	

科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

教材資料

【7】役割分担（仮）

【カレー】

担当分野	担当者（グループ）
リーダー	土屋 さん
広報・設営	池澁 さん
食	宮崎 さん・渡邊 さん・ガラ さん

【ミャンマーデザート】

担当分野	担当者（グループ）
リーダー	イーコーさん
広報・設営	小山 さん
食	髙橋 さん・スー さん

【8】予算概要（概算）

大まかな費用イメージを整理しましょう。

項目	内容・目的	金額（円）	備考
食材・材料費	①カレー ②ミャンマーデザート	①10,000円 ② 1,700円x5＝	具材までは決めていない。 参加人数と1人あたりの単価をもとに、原価の上限のイメージを立ててみました。 材料費は大まかに出した数字をもとに調整しようと思います。
備品・装飾			基本手造り＆借りる
広報費			
その他			
合計			

【9】期待される効果・今後の展望

このイベントを通して、どんな変化・成果を目指しますか？

地域課題実践PJⅡ　コンテンツ精査

【1】コンテンツ想定

今回のイベントのメインとなる「1～2個の企画」を明確にする。

メイン企画①：インドカレーとミャンマーデザート

インドカレーがメイン。
ミャンマーデザートは、デザートを1種類と紅茶程度で準備を進めます。

メンバーはインドカレーを多めに配置しています。

【2】当日の会場にいる人の構成イメージ

「誰が・どんな立場で」参加するのかを人数感も含めてイメージする。
会場のキャパシティ的に、参加者は10-15名程度の想定。

※項目は今回の募集ターゲットに合わせて適宜、追加・削除ください

- 参加者
  - 阿蘇地域の方（日本人）：○名
  - 阿蘇周辺に在住の外国人：○名
- 運営
  - 学生（日本人、国際学生含む）：9名
  - オルサ関係者：1名

【3】企画内容の深掘り（1～2つの核を“磨く”）

各コンテンツについて、ねらいと構成要素を整理する。

■ メイン企画（カレー）

ねらい（**Why**）：スリランカのカレーを紹介する。

内容（**What / How**）：
・にぼしカレー

・ご飯　スリランカのお米だと4,000円／5kg
　　日本米だと4,500円／5kg

・約10000円

・原価は500円くらい

必要な準備・物品：
・（トマト、玉ねぎ、にんにく）ダイレックス

カレーリーフ、ココナッツミルク、シナモン、カレーパウダー、ウコン、唐辛し ↓

・大きい鍋









科目名：地域課題実践プロジェクト

阿蘇の朝から、世界とつながる ― International Breakfast Project ―

教材資料

https://leyonsuper.com/product-category/srilankan-spices/

SUPERMARKET

Hamessa Boat Dry Fish 300g	¥675	2	¥1,350	×
Wijaya Curry Powder 250g	¥475	1	¥475	×
Curry Leaves Dry	¥245	1	¥245	×
Cinnamon 50g | Rimessa	¥275	1	¥275	×
Rahara Kahe Powder 100g	¥425	1	¥425	×
Kanderumungu (Cardamom)	¥325	1	¥325	×
Coconut Milk Powder 300g Maggi	¥895	1	¥895	×
Basmathi Rice 5kg | Paradise	¥3,990	1	¥3,990	×
Chili Powder 250g	¥425	1	¥425	×

■ メイン企画（ミャンマーデザート）

ねらい（**Why**）：ミャンマーのデザートと飲み物が、朝にどれだけ美味しく楽しめるかをみんなに知ってもらうことを目的としています。
朝の新しい楽しみ方として、ミャンマーの味を気軽に体験してもらいたいという想いがあります。

内容（**What / How**）：
・ミャンマーのデザート（サンウェ・マ・キン）を提案
・ミャンマーコーヒー、紅茶、お茶



ミャンマーデザート20人前で8,000円
コーヒー1箱（30袋入り）1,850円 ／ 紅茶1箱（30袋）1,850円

送料は別でかかる

サンウェ・マ・キン （15 日到着）

1600円 x 5 回= 8000 円

必要な準備・物品：
・サンウェ・マ・キンは注文する予定で仮に注文がいる。
・電気ケトル、フォークとナイフ、





告知・集客戦略ワークシート

1. 集客目標と当日の参加者イメージ

- 目標人数：17人
- 当日の参加者構成（例：地域住民〇名、外国人〇名、学生 名）：

  ※運営は9名

2. 告知物は何を作る？

※ターゲットに合わせて、取捨選択しよう

- チラシ（紙）／余裕があれば
- Instagram投稿
- 学校HP・SNS

※キャンバを使って画像を作成

3. 申込方法はどうする？

- Googleフォームを使う？（はい・いいえ）
- 質問項目（必要な項目を箇条書きで）

・名前
・車でお越しですか
・イベントを何で知りましたか？
・写真・動画等の撮影・掲載同意について
・アレルギー
・備考

4. 拡散方法（どう届ける？）

- SNS（どこに、どんな内容を投稿する？
  └ オルサ・学校のInstagramのアカウントに投稿
  └ 準備した画像載せる
- 学内（どこに掲示／どの先生に依頼？）
  └ ホワイトボード（学生掲示板）に掲示する
  └ 鈴木さん・廣瀬さん
  └ 藤川
- 地域・関係者（どの場所・団体に置く／知らせる？）

5. 告知の主なメッセージ

（どんな言葉で参加を引きつけたい？）

- メインメッセージ案：
  ・
- サブコピー案（あれば）：

6. 告知のスケジュール（ざっくり）

- いつ告知を始める：12月24日（水）
- いつ申し込みを締め切る：1月13日（火）
- いつ直前リマインドを出す？：1月16日（金）（前日）